

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Athletic Club ハートフル			
○保護者評価実施期間	2025年11月15日			2025年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数)	26
○従業者評価実施期間	2025年11月15日			2025年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの特性や発達段階を丁寧に理解し、それぞれに応じた専門性のある支援を提供している点が大きな強みです。支援計画は、子ども本人や保護者のニーズを踏まえて適切に作成され、計画に沿った支援が継続的に行われていることが、アンケート結果からも高く評価されています。	子ども一人ひとりの特性や発達段階を踏まえ、支援計画および保護者のニーズに沿ったセッション内容を意識的に構成している。個別性を大切にしながら、状況に応じて内容を調整し、継続的で一貫性のある支援を行っている。	支援計画の内容について、定期的な見直しと職員間での共有を行い、子どもの成長や変化に応じた支援の質の向上を図ります。また、保護者からの意見や要望を継続的に把握し、支援内容へ反映させることで、より個別性の高い支援の実施につなげていきます。職員の専門性向上を目的とした研修や情報共有の機会を確保し、支援力の底上げを図っていきます。
2	生活空間や活動環境についても、「清潔で安心して過ごせる」「子どもに合った空間づくりがされている」との回答が多く、子どもが落ち着いて過ごせる環境整備が徹底されています。活動内容についても、固定化せず工夫されており、「いろいろな活動があって良い」との声が寄せられていることから、子どもたちが楽しみながら通所できる工夫がなされていることがうかがえます。	少人数でのグループセッションを基本とし、訓練室を広く使用することで、子どもが安全に身体を動かせる環境づくりを行っている。また、活動の見通しを持てるようセッションの流れは一定程度固定しつつ、内容については子どもが飽きずに楽しめよう、多様なプログラムを取り入れている。	子どもが安心して活動できる環境を維持するため、訓練室や備品の定期的な点検を継続するとともに、活動内容に応じた環境設定の工夫を行っていきます。また、子どもの興味・関心や発達段階に応じて活動内容を随時見直し、楽しみながら参加できるプログラムの充実を図ります。活動の流れや目的を分かりやすく伝える工夫を行い、子どもが見通しを持って安心して参加できるよう支援していきます。
3	保護者との連携面では、日々の丁寧なフィードバックや情報共有が行われており、子どもの成長や健康・発達状況について共通理解が図られている点が高く評価されています。保護者からは、職員が親身に関わり、安心して相談できる体制が整っているとの意見も見られ、信頼関係の構築がしっかりとできていることが強みといえます。	各セッション終了後には、子どもの様子を保護者へ丁寧にフィードバックし、あわせて学校や家庭での様子を共有していくなど機会を設けている。得られた情報を支援内容に反映させ、より効果的な支援につなげている。	日々のフィードバックに加え、面談や情報共有の機会を活用し、保護者とのコミュニケーションをより一層充実させていきます。家庭や学校での様子を踏まえた支援の検討を行い、保護者と共に理解を深めながら、子どもの成長を継続的に支えていきます。また、保護者が安心して相談できる体制づくりを維持・強化し、信頼関係のさらなる向上を目指します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や他事業所・放課後児童クラブ等との交流機会については、「わからない」「いいえ」の回答が比較的多く、取り組み自体やその内容が十分に保護者へ伝わっていない、または機会そのものが限定的である可能性が示唆されました。今後は、地域とのつながりを意識した活動の検討とともに、実施状況をわかりやすく発信していく必要があります。	事業所の支援スタイルや運営体制上、地域の組織や他事業所、放課後児童クラブ等と継続的な交流の場を設けることが難しい状況があります。また、地域とのつながり自体が限定的であることから、交流機会の確保が十分に行えないことが要因として考えられます。	地域とのつながりを広げるため、近隣の放課後児童クラブや他事業所、地域団体との情報交換や連携の機会を検討していきます。交流活動については、すべての家庭に一律で実施するのではなく、希望やニーズを把握したうえで、参加を希望する家庭を対象とした小規模な交流機会の創出を目指します。
2	家族支援（保護者向け研修会・勉強会・ペアレントレーニング等）に関する項目でも、「わからない」との回答が多く見られました。このことから、支援の機会が十分に提供できていない、または実施していても周知が不十分である点が課題として挙げられます。保護者が参加しやすい形や内容を検討し、情報提供の方法を工夫することが求められます。	保護者向け研修会や勉強会等については、これまで十分に実施できていない状況があります。過去には、専門職（理学療法士等）を招いた発達相談会の開催を企画しましたが、参加希望が集まらず実施に至らなかった経緯があります。	保護者のニーズを把握するため、面談や日常のやり取りを通じて、希望する支援内容や参加しやすい時間帯・形式について意見収集を行います。
3	「椅子などが少し危なっかしい」といった意見も見られ、安全面に関する細かな配慮について、改めて点検・改善を行う必要があります。子どもが安心して過ごせる環境を維持するため、設備や備品の安全確認を継続的に行っていきます。	設備や備品については日常的な点検を行っているものの、利用者から「椅子などが少し危なっかしい」といった意見が寄せられたことから、細部における安全配慮が十分でなかった可能性があります。子どもの成長や活動内容に伴い、想定されるリスクが変化する中で、環境整備や安全確認を継続的に見直す必要があることが要因として挙げられます。	設備・備品について定期的な点検を実施するとともに、利用児の年齢や特性、活動内容に応じた環境整備を継続的に見直していきます。保護者からの意見や気づきを積極的に取り入れ、必要に応じて備品の交換や配置の変更を行い、安全性の向上を図ります。また、職員間での情報共有を強化し、リスクの予測と予防を意識した支援を行うことで、子どもがより安心して過ごせる環境づくりに努めます。